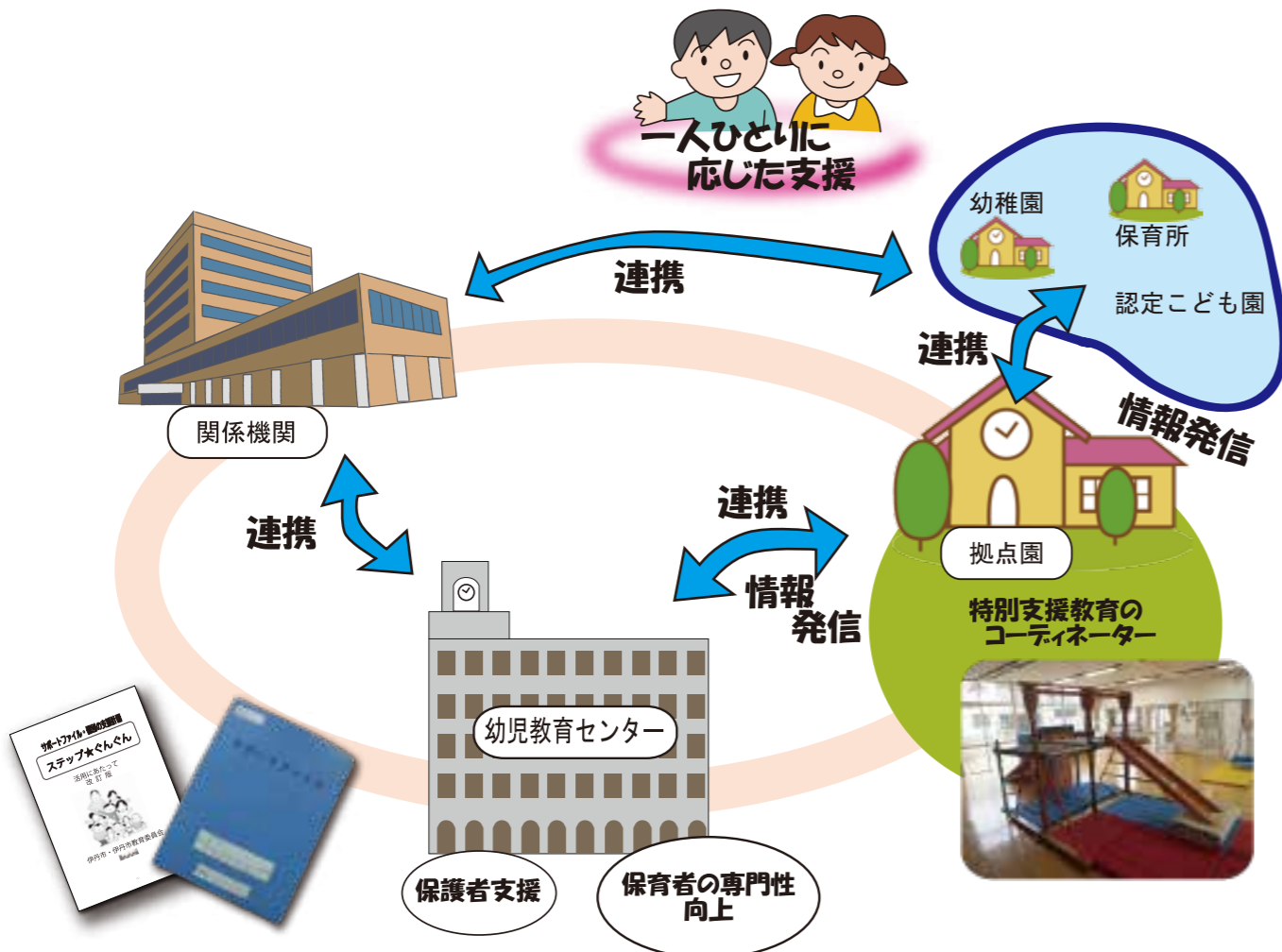


### ③ 一人ひとりに応じた子どもの支援の充実を図ります

一人ひとりの子どもが、生活の中での困難を改善し、安心して遊び、仲間とふれあい、つながり、もてる力を発揮し、自信をもつことが大切です。

- 子ども自身が友達のよさを知ったり、自分と友達との違いに気付いたりしながら多様性を認め合える仲間づくりを推進します。
- 一人ひとりの発達の特徴における理解と、個に応じた支援を充実します。
- 一人ひとりの子どもの生活状況に応じた支援を充実します。
- 拠点園、幼児教育センター、関係機関と連携しながら、保育者の専門性の向上を図るとともに、保護者支援を充実します。



### ④ 幼児教育から小学校教育への接続を図ります

幼稚園、保育所、認定こども園等の就学前施設では、乳幼児の発達の特徴に応じて遊びをはじめとする自発的な活動を中心にした生活を重ね、教育・保育を行っています。

小学校の授業や学習に向かう姿勢、人に優しくするなど人間性は、乳幼児期に遊びや経験を通して培われた力と大きく結びついています。

幼児教育から小学校教育への接続において大切なことは、小学校教育の先取りをすることではなく、幼児が遊び、幼児期にふさわしい生活が充実、発展することを援助することです。

そして、幼児教育では、幼児期の学びが小学校教育においてどのようにいかされていくのか、小学校教育では、幼児期には何が育ち、どのような経験をしてきたのかということ、相互に知り、理解することが必要です。

- 各園のカリキュラムを基本としながら、保育者は幼児教育カリキュラムを共有し、幼児教育から小学校教育への接続を意識します。
- 就学前施設の保育者と小学校教職員との合同研修を充実し、幼児教育と小学校教育との共通理解を深めます。
- 小学校ブロックや地域の拠点園を中心に、地域の就学前施設と小学校の子ども同士の交流を深め、小学校へのあこがれの気持ちを育むとともに、関係者等との情報交換会を開催するなど、日常の子どもの姿や課題を共有していきます。

小学校との一層の接続・連携を図る仕組みづくりを行います。

